

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270500608
法人名	有限会社 ふぁみりい
事業所名	グループホームふぁみりい
訪問調査日	平成 19 年 12 月 19 日
評価確定日	平成 20 年 2 月 18 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270500608
法人名	有限会社 ふぁみりい
事業所名	グループホームふぁみりい
所在地 (電話番号)	長崎県大村市向木場1265番地 (電話) 0957-49-5088

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成19年12月19日	評価確定日	平成20年2月18日

【情報提供票より】(平成19年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 8.6 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 / 改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	95,000 円	その他の経費(月額)	— 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	150 円	昼食 200 円
	夕食	250 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年10月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	75 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中澤病院、吉田内科クリニック、いのうえデンタルクリニック
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の郊外に位置し、騒音がなく静かで日当たりの良い場所にあり、近隣住民が気軽に立ち寄られる雰囲気であり、保育園の子ども達や中高生の訪問を受け入れているほか、職員や利用者が地域の一員として夏祭りや地域清掃等に参加して、地域住民との交流を深めている。
「ふぁみりい」という事業所の名称のとおり、職員は基本理念に基づいて、利用者と一緒に調理や洗濯を行ったり、利用者の希望に合わせて一緒に入浴したり、添い寝をするなど、職員と利用者一対一の関わりの中で思いを汲み取り、寄り添いながら、家族的な関係性の中で支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回は、苦情への対応等についての課題があったが、特に苦情や要望等もなく、家族との関係が良好で、家族が意見を出しやすいよう実践している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価について認識を持ち、現状や理念を念頭に自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回開催している運営推進会議では、ホームでの活動や予定を報告し、参加者から意見をもらいサービスの質の向上に活かすよう努めている。職員も交代で出席し、発表などをするようにしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族への報告は、毎月の利用料等の支払時に行っており、確認のサインをもらい、緊急の場合などは管理者等が電話で報告をしている。また、苦情相談組織図を玄関に掲示するとともに、入居時に家族へ渡し、家族が遠慮なく相談できるように配慮している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員として夏祭りや地域清掃等に参加し、地域住民と交流を図っている。また、保育園や中高生の訪問などの受け入れも行うことで、事業所のアピールをしながら、より一層地域の人々との交流を深めていくよう計画している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	5項目の基本理念に基づいての支援を行っており、地域密着型サービスとして、利用者の住み慣れた環境での生活の支援に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を口に出して確認することはないが、業務の中で理解するようにしており、理念のほかに「宝物はとっても大切に自慢したいもの、そしてこのみんなが宝物」という標語を掲げ実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として夏祭りや地域清掃等に参加し、地域住民と交流を図っている。また、保育園や中高生の訪問などの受け入れも行うことで、事業所のアピールをしながら、より一層地域の人々との交流を深めていくよう計画している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価についての認識はあり、全体会議等にて改善策を検討し実践につなげるようにしている。特に外部評価にこだわることなく努力を重ねている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している運営推進会議では、ホームでの活動や予定を報告し、参加者から意見をもらいサービスの質の向上に活かすよう努めている。職員も交代で出席し、発表などをするようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2か月に1回開催される在宅セミナーの参加や、市内の同業者で作っている「各駅停車」と名付けられた研修会等に出席して連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料等の支払時に家族への状況報告を行っており、確認のサインをもらっている。また、緊急の場合などは管理者等が電話で報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談組織図を玄関に掲示するとともに、入居時に家族へ渡し、家族が遠慮なく相談できるように配慮している。	○	現在のところ苦情がない状況だが、投書箱などを設置しておくことで、何でも伝えられるホームだという安心感を与えられると思われるので、設置の検討を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在、職員の定着率は高いが、休職等があれば状況に応じて対応しており、全員に対して管理者から報告し、利用者のダメージを少なくするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加した職員は、月1回の全体会で研修の報告を行っており、職員同士で意見交換を行い、実践の中でもトレーニングしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者で作る連絡会において、勉強会や相互評価、相互訪問などを行い、サービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始前から本人の情報を極力収集するように努め、職員全員で把握し、本人が安心して生活できるようにケアに努めている。また、家族の面会の機会をできるだけ多くしてもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者から教えられることも多く、利用者と職員が1対1でゆっくり話せる時間を大切にしている。ときには職員が利用者に添い寝をしながらゆっくりと話をすることもあり、喜怒哀楽を共にして支えあう関係性を大切にして支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中での声かけ等を心がけ、その人の思いや意向を把握するよう努め、希望はできるだけ取り入れるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人らしく暮せるように、担当の職員が利用者からの要望や関係者の意見を聞くなどして、できるだけ本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行い、職員は介護計画に基づく統一した方針のもと支援を行っている。また、利用者の状態の急変などがあつた場合にも見直しを行うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と相談しながら、利用者ができるだけ外出や外泊ができるように積極的に支援しており、病院とも連携して月1回リハビリを受けられるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員がそれぞれのかかりつけ医を受診しており、定期健診も行っている。職員は、それぞれのかかりつけ医と連携を図り、利用者一人ひとりが必要な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合や終末期について、家族や医師などと話し合いを重ね、ホームで支援できる範囲や支援方法について検討しており、職員全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーを損ねることのないような言葉かけや接し方を心がけており、個人情報についても、ホーム内での取り扱いを徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人なりの楽しみを生かし、利用者が笑顔で過せるように、職員も笑顔で接し、一人ひとりのペースを尊重できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの全員が家族の一員であることを念頭に支援を行っており、利用者の状態や能力に合わせて調理や盛り付け、食器洗いなどを一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに入浴してもらおうよう決めているが、利用者の希望があればいつでも入浴できるようにしている。一人での入浴に不安がある利用者には、職員と一緒に入り、安心して、楽しく入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握して、調理や洗濯、園芸などそれぞれに合わせて活動してもらい、楽しみや気晴しができるように心がけている。また、利用者それぞれに役割を担ってもらい、常に感謝の意を表して声かけをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の状況に応じて買い物などに出かけているほか、弁当を持参して季節ごとの花見などに出かけたり、外食に出かけたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りのもと、日中は玄関等に鍵をかけないようにしている。また、玄関にはセンサーを設置し、人が出入りする時はブザーが鳴るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防総合訓練をしており、自治会長等地域住民にも協力してもらっている。また、消火競技大会への参加によって職員の意識を高めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>月1回体重測定をしたり、毎食の摂取量を記録したりして栄養状況の把握を行っている。栄養のバランスについては特に専門家には相談していない。</p>	○	<p>栄養のバランスを保つためにも、献立表を栄養士等の専門家に相談するか、一週間に食べた物を記録してアドバイスを受け、量や栄養のバランスがとれるよう取り組まれることを期待したい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には、それぞれ季節の花を飾るなど利用者が心地よく過ごせるように配慮しており、不快な音や光等についても注意を払っている。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に居室への物品の持込について説明し、利用者が使い慣れた物や馴染みの物を持ち込んでもらっている。また、家族の訪問の際に家族も利用者の居室に泊まれるような配慮もしており、居心地よく過せるように努めている。</p>		